

中山間地の地域づくりに励む一関・下内野
自治会長



い
ち
ろ
さん
か
つ
べ
き
部
欣

一関市大東町の下内野自治会の20年の歩みを記した記録集「緑と水の里 しもうちの夢紀」長となり、10年目を迎えた。農業基盤整備や水質保全活動、そして国際交流。41世帯でつくる山あいの小さな自治会とは思わせない幅広い活動を展開する。

大船渡工、千厩高などで教鞭を執った後、農業に従事。「古里のためにやりたい」と自治会長に就任した。

ひと

県内外で活動が評価され、これまで受けた表彰は数多い。会

近年の新機軸は「かじかの里薬草栽培研究会」の結成だ。トウキ（当帰）などの薬草を試験的に育て、将来的には高収益作物の安定栽培を目指す。

青々と薬草が生い茂る自宅近くの畑の風景を眺め「うまくいってほしいね」と願う。そのまなざしは、地域のことを思えばこそ真剣だ。

妻と2人暮らし。同市大東町出身。70歳。

（一関東支局・山内俊一）